

片地の貝化石層

立山寺東方の片地池へ向かう林道沿いは、比較的露頭の露出がよく、貝化石含有層も観察できます。このあたりで見られる地層は音川層（新生代新第三紀 1350～500万年前）と呼ばれ、貝化石を含むことがあります。名前からも分かるように模式地（一番最初に発見された場所）は婦中町音川小学校校区内の山田川沿いです。この地層から発見される貝化石などを調査することによって、この地層は、寒流が流れ込むごく浅い内湾で堆積したと考えられています。



この片地でも多くの貝化石が発見されます。貝化石層は密集しており、かけらになったものも少なくないことから、貝が死んでから海水の流れによって運ばれてきて堆積したということが推測されます。また、貝がらはもろく、なかなか丸ごと化石を掘り出すのは困難なのですが、次のような化石が発見されることで、堆積した環境を推定することができます。



- ・クサビガタオオノガイ：内湾潮干帯の砂泥底に住む。
- ・エゾタマキガイ：水深5～30mの砂泥底に住む。
- ・ビノスガイ：潮干帯～20mの細砂底に住む。（学生版日本古生物図鑑より）